２０１７年４月１日(土)～５月７日(日)

特別展 女の子と男の子のお雛さま　寄贈品コーナー 五月人形展

展示資料から

大正時代の京都のおくどさんと水屋

明治 32 年に京都市で生まれた諸木きみさんの内裏雛、大正時代のおくどさんと水屋。おくどさんと水屋道具は京都の特徴で、関東では見られません。ひな祭りに飾り、女の子たちは実際におくどさんで煮炊きをし、水屋道具を使っておままごとを楽しみました。女子の情操教育の一環でもあったといわれます。

昭和 19 年の端午の節句飾り

戦局が厳しくなると節句人形も配給制になりました。国府津から平塚市の平田人形店へ何度も通い、やっと手に入れられたという五月人形です。

（寄贈品コーナーで展示）

大人気！　堤 静夫・眞理子 氏 寄贈の豆雛

堤さんご夫妻が昭和 43 年から集め続けた 500 組 1263 体の豆雛と豆雛道具が大人気です。